

6・7組 国語科学習指導案

平成 28 年 10 月 24 日 3 時限目

場 所 6 組教室

指導者 田邊 節子(T1)

三矢 つね美(T2)

1 単 元 力をあわせて たのしく ひょうげん しよう

2 単元目標

- (1) 言葉や文に親しみ、楽しむことができる。 (国語への関心・意欲・態度)
- (2) 話の内容に合った言葉を発表したり、聞いたりすることができる。 (話す・聞く能力)
- (3) 鳴き声や思ったことを文字で表そうとする。 (書く能力)
- (4) 自作の詩や物語を読むことができる。 (読む能力)

3 単元について

(1) 児童について

本校の特別支援学級の6組(知的障がい)には、2年生1名(A児)、3年生5名(B児、C児、D児、E児、F児)、5生1名(G児)の7名が在籍している。7組(情緒障がい)には、3年生1名(H児)、5年生1名(I児)、6生1名(J児)の3名が在籍している。両学級の児童は、音、リズムのあるものや音楽を聞くことが好きである。気に入った音楽やフレーズを繰り返し口ずさんでいる。国語の授業では、毎回、詩の音読を行ない話す聞く力を育て、紙芝居や本の読み聞かせをして、多くの話に親しみ、話を聞くことから理解を促したいと考えている。

個々の学習における違いはあるが、みんなで力をあわせて楽しく表現できるように取り組んでいきたい。

(2) 教材について

この単元の中で、同じ音を聞くことにより、共通の課題に対して、様々な感じ方を子ども達がもち、表現できるようにしたい。語彙数が十分でなく、学習能力に個人差があっても、音であれば、自分の感じたことを言葉で表現しやすいのではないかと考える。児童が発表する場面を録音し、再生して見合うことで表現することの楽しさを感じたり、表現したことを確認したりすることができる。分かりやすい発音ができるために一つ一つの音を正しく構音でき、二つ以上の音を記憶し、組み立てる学習を行いたい。また、「ブレーメンの音楽隊」の話を取り上げる。この話の中で、動物たちが、力を合わせていきいきと活躍する様子を学び、児童達も同様に力を合わせて劇を作り上げていく活動に取り組みたい。

(3) 指導について

「ワンワン」「ニャンニャン」といった動物の鳴き声が表現できることやどのような気持ちで鳴いているのかを表現できることで本単元の主題にせまる表現とする。物事の感じ方は、人それぞれに違う。音も同様に、人によって、それぞれ違って聞こえる。どの表現にも間違いはなく、表現できることは素晴らしいことを常に児童に伝え、児童一人一人が、意欲的に、自信をもって表現できるよう支援したい。場面寡黙の児童に関しては、友達の助けを借りる状況であっても、自分から声を発したいという気持ちが持てるよう支援したい。

4 単元の指導計画（全7時間完了）

学習活動	主題にせまる手だて（☆めざす表現）
<p>動物の鳴き声を表現しよう ②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茶臼山に、やぎがいたね。どんなふうに鳴くのかな。他の動物はどうか。 ○やぎは「メー」だよ。ひつじもかな。 ○ろばは「ヒヒーン」だよ。 ○犬は「ワン」だね。 ○ねこは「ニャオー」だよ。 ○にわとりは「コケッコ」だね。 <p>・動物カードを使っていろいろな鳴き声を表現してみよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが目にした動物や、身近な生き物がどんなふうに鳴いているのか関心をもてるように映像や音声をもとに考えがもてるようにする。 ☆やぎ…「メー」「メーメー」 ☆ひつじ…「メーエー」「やぎと似ているね」 ☆ろば…「ヒヒン」「ヒーヒー」 ☆犬…「ワワン」「ワーン」 ☆ねこ…「ニャオーン」「ニャンニャン」 ☆にわとり…「コケッコ」「ケッコ」 ・思いついた鳴き声を書けるように文字の表や教師の見本を提示し、支援する。 ・どんな鳴き方でも、間違いはなく、自信を持って発表してよいことを伝える。
<p>「ブレーメンの音楽隊」を読んで表現しよう ⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが考えた鳴き声の動物がたくさん出てくるお話だよ。読んでみよう。 ・いろいろな鳴き方があるね。お話の場面に合う鳴き方を考えよう。 ・動物たちが仕事を失った場面の学習をする。 ○「がっかりしている」 ○「悲しいよ」 ○「いやだな」 ○「困ったな」 ・動物たちがブレーメンに向かう場面 ○「やったあ。ブレーメンに行けるよ」 ○「うれしいな」 ・泥棒を見つける場面（本時 6/7） ○「泥棒は怖いな」 ○「泥棒は悪い人だよ」 ・泥棒に立ち向かう動物たちの場面 ○「おどかしちゃおう」 ○「こわいけどがんばるぞ」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブレーメンの音楽隊の紙芝居を題材として学習を進める。 ・全文を読むのが難しい児童には、鍵になる場面の文章やキーワードを取り上げて示し、読めるように支援する。 ・場面に合った登場人物の気持ちを言葉や鳴き声で表現できるように挿絵や動作化を取り入れる。 ・同じ意見でもよいので発表ができるとういことを伝える。 ☆動物たちが必要とされなくなった場面では悲しい思いの表現や鳴き方できる。 ☆ブレーメンへめざす場面はうれしい気持ちを言葉にしたり、うれしそうな鳴き声で表現したりする。 ☆泥棒のイメージをもつことができる。 ☆泥棒に向かって勢いよく鳴き声を表現したり、気持ちを言葉に表現したりすることができる。
<p>「ブレーメンの音楽隊」を学芸会で発表しよう（時間外）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「楽しく発表するよ」 ○「みんなに見てもらえるようにがんばるよ」 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを活かして、楽しく発表できるように支援する。
<p>【この単元でめざす子どもの姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物の鳴き声は楽しいね。鳴き声を表現すると楽しいよ。 ・友達一人ひとりが鳴き方が違うけれど、みんないいね。 ・お話の場面に合わせて鳴き方を変えて表現するとおもしろいね。 ・ブレーメンの音楽隊をみんなで発表するのが楽しいね。 	

5 本時の指導（6/7）

(1) 目標

- ・話を楽しんで聞くことができ、動物の鳴き声を表現することができる。
- ・話の場面にあった鳴き声を考え、表現することができる。

(4) 展開

学習活動 (・教師の支援)									
J児	H児	A児	D児	F児	E児	B児	C児	G児	I児
<p>学習内容</p> <p>1 本時の学習場面である文章を読む。</p> <p>2 文章に出てくる泥棒について考える。</p>									
<p>自分の考えをもつ</p>									
<p>・はりきって読む姿や、大きな声で読もうとしている姿など、子どもの良いところを見つけ、ほめることで、学習意欲を高める。</p> <p>・教師や友達とともに、 ・なるべく自分で読めるように支援する。 ・全文が読みきれないときは主要な部分を読むことを伝える。</p> <p>今日は、泥棒が出てくる場面の様子を考えてみよう</p> <p>・T1が全体を見て、T2が個別の支援をする。 ・泥棒の場面図を示し、児童の考えの助けになるようにする。 発問「泥棒は何をしているのかな。」…○お酒を飲んでいる。騒いでいる。お金を教えている。宝物を見ている。 「泥棒はどんな人かな。」…○悪い人。物を取っちゃう人。 ・「泥棒が怖い」という意見も予想される。動物側の気持ちとして明確化し次の課題につなげていく。 ・他の人が言った意見を繰り返して発表したときもよく考えたとして認める。 ・自分自身で考えた内容が発表できるように声をかける。 ・出てきた言葉の内容について深められるようにする。</p>									
<p>3 泥棒に立ち向かう動物たちについて考える。</p>									
<p>かかわり合う</p>									
<p>泥棒に向かっていく動物たちの様子を表現しよう</p> <p>・T1が全体を見て、T2が個別の支援をする。 ・泥棒を見る動物たちの場面図を示し、児童の考えの助けになるようにする。 「動物たちは何をし、どんなことを思ったのかな」…○「大声を出した」「怖いな」「やっつけよう」「怖いけれどがんばろう」 ・気持ちは表現できなくても、鳴き声で表現できるように支援する。 ・動物たちの思いを言葉で表現したうえで、鳴き声で表現できるように支援する。</p>									
<p>4 各動物のチームごとに表現の練習・発表をする。</p>									
<p>まとめる ぶんりかえる</p> <p>動物のチームごとに練習をした後、発表をする。 ・T1が全体を見て、T2が個別の支援をする。 ・劇の台本を参考にしてもよいことを伝える。 ・発表後、全員の表現のよさや改善点があれば伝えあえるようにする。 ・ビデオ撮影したものを参考にする。</p>									